



原案・作詞・作曲／スチュアート・マシュー・プライス

脚本／ティモシー・ナップマン

演出／中本吉成

翻訳・訳詞／吉田英美

2018.12.22 @STAR PINE'S CAFE

**BEFORE AFTER**

SCENE ONE - AFTER (1)

照明<sup>2</sup>。舞台上にはオークの木。ベンが景色を眺めている。

MI Coming Back

ベン

またここへと  
引寄せられる  
世界に取り残されたままで  
教えてくれ  
止まった 時間を  
動かす術を

エイミーが現れるが、ベンには気付かない。

エイミー

またここへ  
来ることはない  
あの日決めた  
もう振り返らず  
進むべきと  
痛みも ぬくもりも  
すべて忘れて

ベン

闇に消えた 日々を

エイミー

忘れて

ベン

追いつけても

二人

答えを求めて  
さまようだけ  
出口は 見えぬまま

ベン

過去から 呼ぶ声  
導かれて  
何故か ここへ

エイミーがベンに気づき、目を疑う。

エイミー

…ハニー。

ベン

(彼女に気付いて微笑む) ハニー。(視線を景色に戻す)

エイミー

(ベンの様子に腹を立て) 「ハニー」？ それだけ？

ベン いや、えっと…ごめん。こんにちは。(視線を景色に)この景色があまりに…

エイミー 信じられない。

ベン だろ！(勘違いに気付いて)僕、何かまずいこと言った？

エイミー はい？

ベン …言ったんだね。

エイミー どう思う？

ベン …ごめん。いや、変わった人に出くわすと…

エイミー 「変わった人」？

ベン あっ、「変わった」って言うっても別に変人ってことじゃなくて。えっと…綺麗な人とか。…ちよっと怖いけど。そういう人に出会った時、どう接していいかわからないんだ。

エイミー (呆れて) そうみたいね。

ベン いや、本当にわからないんだ。覚えてなくて。事故に遭って…

エイミー 事故？ いつ？

ベン 一年半くらい前。結構ひどい事故で頭も強く打って、何も思い出せなくなっちゃったんだ。あれだよ、記憶を…ほら、喪失しちゃう…えっと…

エイミー 記憶喪失…。

ベン それ。

エイミー ………！

ベンに飛びつき抱きしめる。ベンはどろどろしていいかわからずされるがまま。少しの間。

ベン …えっと…これは普通のことなのかな？なんていうか、僕は嬉しいんだけど。君はいきなり人に抱きつくような女性には見えなかったというか…。

エイミーはようやくベンから離れて涙をぬぐう。

エイミー ごめんなさい。

ベン 頭に傷跡が残ってるけど、見る？ ちょっとグロテスクだからこれから食事の予定があるならあまり勧めないけど…。

エイミー ちょっと知り合いに似てたから…それだけ。それで、まったく何も覚えてないの？

ベン 事故に遭った時、財布を持ってなかったんだ。でも自分の名前がベンだったことだけは医者がみつけてきてくれた。ベンだ。宜しく。

エイミー よ。

ベン エイミー。いい名前だね。握手の仕方とか、歩き方とか喋り方とか、着替え方とか、そういうのは問題ないけど、事故より前の記憶は何も。恋人がいたかどうかすら覚えていない。まあいたとしても、僕を探しに来ないってことは、あまりいい彼氏じゃなかったんだろうね。そう思わない？ (問) 頭の中にスケッチみたいな絵が浮かぶんだけど、何かを思い出すヒントにはならなくて。ただこの場所は…特別な何かがある。わかるかな？ ここには初めて来たの？ 今まで会ったことはないと思うけど。

エイミー 久しぶりなの。ずっと来てなかったんだけど、昔はよく来てたわ。

ベン じゃあわかるよね、この場所の魅力！ この景色のことを考えずにいられないんだ。セラピストによると、「強迫性障害」って言うらしい。知ってる？ 『未知との遭遇』みたいな。

エイミー えっ？

ベン スピルバーグの映画だよ。観たことない？ 最高だよ。ある男がUFOに遭遇するんだ。Zoom! って強い光を浴びたら、男の脳裏には山のイメージが焼き付いて離れなくなる。気付くとその山の絵を描いたり、模型を作ったり…マッシュユポテすらその山の形にしちゃってるんだよ。奥さんに「あなた狂ってるわー」って言われるんだけど、「違うんだ、これはエイリアンからのメッセージなんだ！」って。実は、その山はUFOが着陸する予定の場所だったんだ。で、彼がそこへ行くと、UFOが Whoosh! って降りてきて、Zoom! って…知らない？

エイミー あなた、スピルバーグの映画は覚えてるけど恋人がいたかどうかは覚えていないの？

ベン 違うよ。頭にイメージが浮かぶって話をセラピストにしたら、DVDを貸してくれたんだ。

エイミー　つまり、ここに繰り返し戻ってくれば、記憶を取り戻すきっかけになるかもしれない、ってこと？

ベン　それか、宇宙人に遭遇するか。ある日突然、パソコンでダウンロードするみたいに全部思い出すかもしれないし、一生戻らない人もいるって。正直、ふっきって、前に進んだ方がいいって思う自分もいるんだ。だって、これまで僕がこの世に存在した証は何一つなかったんだよ。フェイスブックのページすらね。きつと、たいした人生じゃなかったんだ。元カノの判断は正しかったのかもね。いたとしたら、だけど。僕は酷い男だったのかもしれない。

エイミー　酷い男なんかじゃなかったわ。

ベン　どうだか。でもほら、僕はやり直すチャンスをもたらったんだ。ゼロからスタートできる。今ならなんだってやれるんだ。どんなでっかい夢も実現させる可能性がある。

エイミー　それで、今は何をしてるの？

ベン　コールセンターでバイト。

エイミー　…ずいぶんでっかい夢ね。

ベン　退院して仕事を探した時、そこぐらいしか雇ってくれるところがあったんだよ。でももううんざりだ。君はどんな仕事を？

エイミー　小さなギャラリーを持つてるの。絵画がほとんどだけど、時々彫刻も展示してる。

ベン　それだよ、それ！　本気で夢中になれて、自分を満たしてくれるもの。

エイミー　四六時中働いてもう何ヶ月も友達と会ってないけど、好きでやってる仕事なのは間違いないわ。夢中になるっていうのがそういうことならね。

ベン　昔からその仕事をしたの？　それとも、生活のためにつまらない仕事をやって、ある日突然、「人生は短すぎる」って思い立って今の仕事を？

エイミー　ある人と出逢ったのよ。彼がすべてを変えた…。…ベン？

ベン　何？

エイミー　なんでもない。ゼロからスタートって、悪くないかも。ねえ、何か飲みにいかない？

M2 Transition 1 (A Little Longer Pre-Scene)

ベン 別に喉は乾いてないけど…あ、ごめん、そういうことか。

エイミー 行こう

実は私、殺人鬼かもしれないわよ。

ベン そうは見えないけどね。

エイミー でもいきなり人に抱きつくような女にも見えなかったでしょ。

ベン たしかに。

エイミー 過去に一回だけ。その時はアクシデントだったし。

三年前…

あの頃の私、今と全然違ったのよ。服装から何から…

エイミーの台詞と同時に「BEFORE」く。

SCENE TWO - BEFORE (1)

レストランの店内。テーブルにはワイングラスがひとつ。転換中エイミーはジャケットを着て髪をアップにする。

エイミー

…父が紹介してくれた仕事をしてただけど、なんだか人生に行き詰ってた。でもモデルみたいな、理想通りの恋人はいたのよ。彼はすべて持ってた。素敵なおマンションも、車も、洋服も…いつも約束をすっぽかす素敵ない訳も…

ここまでにベンは退場、エイミーが一人で座っている。

M3 A Little Longer

エイミー

今日も 彼は 遅刻  
でも彼の腕に抱かれたなら  
幸せ keep smiling

見れば いいわ 気にしない  
哀れみの視線 痛くない  
大丈夫よ  
グラス上げて ダメ男に乾杯！  
なさないけど

わかってるけど  
笑い飛ばせばいいの  
でも笑えない  
一時間半待った  
あともう少しだけ 待ってみよう

(ウェイターにサイン) 赤のグラス、もう一杯いただける？

これで いいの いつも  
期待しても裏切られるだけ  
まあいい 飲もう (乾杯のしぐさ)  
一人

聞き飽きた 嘘や言い訳ばかり  
信じてるふりをしてる  
だって 仕方ないでしょ  
やっとみつけた 理想の彼なら  
待って… 待って…  
待って…もう少し…

エイミーの携帯が鳴る。

ヤバイ！ (電話に出る) もしもし、パパ？ いいえ、まだレストラン  
なの…えっと…いいえ、まだ来てないけど、もうそろそろ着くはず…  
ううん、そんなに待ってないわ。…私？ まさか、お酒なんて飲んで  
ないわ、パパ。…彼、仕事が忙しいのよ、知ってるでしょ。「そうい  
う男だから気に入った」って言ってたじゃない。「あいつなら頼もし  
い旦那になる」って。…もちろん大事にしてくれてるわ。何か大事な  
要件があったのよ。…だから、私を大事にしてないわけじゃないって  
ば！…わかってるから… (店内の視線を感じて) 大丈夫よ、パパ。  
…あつ、彼だわ！ 大きな花束を持って、ものすごく焦って入ってき  
た！ (行かないと。) またね、パパ。

電話を切ってテーブルに投げ出す。

もういい やめよう  
終わりにする前に (立ち上がるうとしてまた座る)  
あと 少しだけ…

ぐいっと飲んだところで再び携帯が鳴り、表示を見ずに出る。

パパ、そうよ、嘘よ。彼はまだ来てないし、理由なんてわかんない。  
口先ばかりの、薄情で責任感のない、正直アソコも小さい、意気地な  
しだからかもね！ 次は本当に私を愛してくれる人を選ぶわ。パパが  
彼の稼ぎを気に入るからじゃなくてね！ (間)  
…ダーリン！ あなただったの？ …まさか、そんなこと思っていない

わ。…いいえ、違うわ。大事なのはテクニクで、大きさを…もしもし？ もしもしっ？ …ああ…最悪！

ウェイター(＝ベン)がグラスをトレーに乗せて持ってくる。  
もういいわよ！ 一人で生きてくから！

突然立ち上がったエイミーは店員にぶつかり、ワインがウェイターの白いエプロンに派手にこぼれる(実際には、シミのついたエプロンを隠しながら入場し、ここで広げる)。

ベン おっと！

エイミー あっ、ごめんなさい！

ベン 大丈夫、大丈夫。

エイミー でもこんなに…

ベン よく見ると悪くないよ。ジャクソン・ポロック風で。

エイミーが泣き出す。

ジャクソン・ポロック、嫌いだった？

エイミー 誰(なんだよ…)

ベン 知らない？ はい、これ(エプロンの裾)使って。

エイミー ありがとう。

ベン アクシヨン・ペインティングの画家だよ。(切り裂きジャック)に掛けて、「ジャック・ザ・ドリッパー」って呼ばれてたんだ。気に入ると思うよ。画風が似てるから。まあ、禿げてるし…もう死んでるんだけどね。

エイミー 女性の慰め方がお上手ね。

ベン よく言われる。ベンだ。

エイミー よ。

ベン エイミー。いい名前だね。こんなところで一人で泣いてるなんて、もったいない。よかったら、どこか飲みに行かない？

エイミー えっ、仕事は？

ベン  
もういいんだ、こんな仕事。時給は低いし、(店内に聞こえるよう大声で)シエフはスープにおしっこ入れてるし！(彼女に)しまいにはお客が僕にワインを投げ始めたしね。どう？

エイミーのモノローグ中、動き停止。

M4 A Little Longer (End of Scene)

エイミー  
どうしよう 彼と飲みに行くか  
後悔するかも  
きつとするけれど  
冷静を装って  
身を任せてみよう

いいわよ。今夜他に予定もないし。

ベン  
今日聞いた中で一番嬉しい言葉だ。

エイミー  
ほんとに？

ベン  
うん、ツイてない一日だね。

エイミー  
それはご愁傷様。どうしてそんなに絵画に詳しいの？

ベン  
実はね、画家なんだ。

エイミー  
へえ！ どんな？

ベン  
腹ペコな。

エイミー  
じゃあ早く食べに行きましょう。

ベンはエプロンはずし、手を差し出す。エイミーはその手を取って、二人はレストランを後にする。退場。

SCENE THREE - AFTER (2)

夕方の丘。エイミーが走って出てくる。

エイミー  
早く！

ベンが息を切らしながら追いつく。

ベン  
待ってよ！ 心臓発作を起こしそうだ！ 救急車を呼んでもらう前に…どうしてこんなところまで満腹で走らなきゃいけなかったの？。

エイミー 夕日を見るためよ。日が暮れるのを一緒に見たかったから。

ベン 夕日？ だったらあと20分はあるよ。歩いても絶対間に合った。

エイミー はいはい。わかったから、機嫌直して。(ベンの頬にキス)

ベン …直った。

エイミー でしょ。

(再びキス)

ベン でもここで初めて会ったからって、デートのたびに来なくてもいいのに。

エイミー あら、宇宙人を待ちたいんだと思った。それに、ここで見る夕日は最高だし。

ベン あと20分もあるけどね。待てよ、もしかして、例のウェイターともここに来たの？ 君がワインをぶちまけたっていう…なんて名前だったけ？ 聞いてないかも。

エイミー 言っただけ。

ベン 彼とはどうして別れちゃったの？ まあ僕には関係ないけど、君の話聞く限りでは、ずいぶんいい男で面白くて…

エイミー 優しくてセクシー。

ベン 嫌なやつだな。

エイミー 素敵なお人だったわ。いつも少年のように目を輝かせてた。でも…

ベン うまくいかなかったんだ。

エイミー お互い若すぎたのかもね。

ベン わかっているとと思うけど、今更君を取り返しに来ても無駄だよ？

エイミー まあ、男前。そっだ、忘れるところだった。プレゼントがあるの。(包みを取り出す)

ベン えっ？

エイミー 二度目のデートだし、一週間記念。まさか何も用意してくれなかった

わけじゃないわよね？

ベン デートのルールにはちよつと疎くて…一週間記念のプレゼント？

エイミー 冗談よ。そんなルールないわ。(包みを渡して) 開けてみて。

ベン でも僕は何も…

エイミー いいのよ。さあ。

プレゼントを開けるベン。スケッチブックと鉛筆が出てくる。

ベン あ…。

エイミー ただのスケッチブックと鉛筆よ。

---

### M5 Sketches (Part 1)

『未知との遭遇』。山の絵を描き続けたんでしょ？

ベン 模型も作った。

エイミー マッシュポテトでね。それよりはの方がロマンチックだと思って。

ベン 悪いけど、受け取れない。

エイミー どうして？

ベン 見覚えのない場所が

頭に浮かぶと

医者たちに話してみた

彼らは 言った

浮かんだ景色を 描いてみると

描き始めた時

急に 激しい 頭痛がおきた

やめどころ

エイミー でもそれはずいぶん前の話でしょう？

ベン 事故に遭った数ヶ月後のことだよ。

エイミー ほらね。もう一度試してみるべきよ。記憶を取り戻すきっかけになるかも。

ベン やめよう

エイミー  
もう一度  
描いてみてよ

ベン  
何を？

エイミー  
なんでも  
夕日を この木 丘を  
自由に

ベン  
自由につて…

エイミー  
ご褒美をあげるわ。

ベン  
どんな？

エイミー  
欲しいものをなんでも。

もう一度

ベン  
下手くそだよ。

エイミー  
だから？

ベン  
笑わない？

エイミー  
笑わない。

ベン  
わかったよ…。

M6 This Time

エイミー  
真新しい 紙の上に

鮮やかな 世界が  
また広がる また始まる  
またあなたと  
今

光と影が 浮かびあがり  
キャンバスが 息づいてく  
輝きが 溢れ出す  
絵の中に あなたがいる

描いてゆく  
完璧で 穏やかな 日を  
重ねるたびに  
二人つなぐように  
一人じゃないの

二人で描く 今度こそ

ベンは自分の才能を思い出したかのように、迷うことなく、創作する喜びを感じながら、描くことに没頭している。

ベンの照明OUT。

胸の奥に 灯がともり

開けてく 世界が

情熱が 呼び戻す

自分らしさ

今

過ちなら 消せるわ

描き直せばいい 何度でも

キャンバスに道を描けば

導くはず

また私のもとへ

私を見て

受け入れて

やり直せる

あの日のように

絵は残るもの

時を超えて色あせず

今を描いて

信じていくわ

今度こそは

ハイミーの照明OUT。

## SCENE FOUR - BEFORE (2)

ベンの部屋。夜。ベンが一人でうつろっている。

ベン

よし、これは一大事だ。人生で一番大事な夜になるかもしれない。すべてはこの決断にかかっている。気軽に決めるわけにも、逃げるわけにもいかない。さあ、決めるぞ…(大きく一呼吸して)黒Tシャツか、グレーTシャツか。

## M7 For the First Time

どうする？どっち選ぶ？

彼女をソノ気にさせるシャツ  
言わせるんだ

「今夜は 帰りたくない」

グレーだ！

コロナを吹きかけて  
さりげなく感じさせるんだ  
気を付けよう  
口は災いのもと

三週間目

緊張してる

彼女が

うちにやってくる

元彼はみんな金持ちで

家も車もあるとしても

このパスタに賭けるしかない

初めて今夜

勝負の時

ついにその時が 胸は高鳴り

彼女を抱き寄せた途端…

(ベンの空想の中の) エイミーに照明IN。

エイミー

私達って、付き合ってるのよね？

ベン

出た！

エイミー

昔恋愛で嫌な思いをしたことがあるから、こういふことはきちんとさせておきたいの。

ベン

エイミー、君を傷つけるようなことは絶対にしないよ。君は素敵だ。そのブラウスも。ほら、脱ぐの手伝っよ。

エイミー

ベンったら、エッチ！ (真顔) でも話題を変えないでちょうだい。

ベン

落ち着け 巻き戻せ

出逢いは たった三週間前

先は長い

覚悟は 決めたけれど

動揺 隠し通せ

音楽でもかけてごまかせ

悟られるな

男らしく 向き合え

一人夜の楽しみは 忘れる  
仲間と朝まで飲むのも

でも いつかは大人になる  
ジヨッキ置いて 紅茶を飲む  
独身貴族にはさよなら  
初めて  
君が望むなら

エイミー 私別に理不尽なことを言っていないでしょ？

ベン もちろん、もちろん。ちなみにそのブラはフロントホックかな？

エイミー きちんと付き合うなら、先に色々話し合っておくべきだと思うの。

ベン 嫌な予感…

エイミー まず、デートの時は必ず花束が欲しいわ。あとチヨコレートでしょ。  
靴やハンドバッグも。それとホームパーティーね。

ベン ホームパーティー？

エイミー 友達にも紹介しないとね。アラミンタとポピーと…

ベン どうでもいい奴らと食事

エイミー ブルーノでしょ、カーラも…

ベン 話題は仕事や子供のこと

エイミー ああそうそう、子供についてだけど…

ベン WOAHH!

僕は恋人の前にアーティスト  
責め立てるのはやめてよ  
まだ縛られたくない  
La la la di da di da ep (エイミーは口パクで喋り続ける)

エイミー 愛してるわ、ベン。

ベンに強い照明。エイミーの照明OUT。

ベン 一瞬で 逃げ場を失った

「僕もだよ」って 言わなきゃ  
言いたいけど

そりゃ

言いたいけど  
でももう少しだけ  
上手くいってるなら このまま  
お互いに 追い詰めないように  
初めて 恋に落ちる…

ドアベルの音。エイミー（現実）がアパートに到着。

はい？

エイミー  
（袖中）私よ。ごめんなさい、早く着いちゃった。あがってもいい？  
それとももう少し外で待とうか？

ベンが答えようと口を開いたところで照明OUT。

### SCENE FIVE - AFTER (3)

ベンの部屋。夢中で絵を描いているベン。部屋には完成したキャンバスや未完成のスケッチの数々。ドアベルが鳴る。キャンバスから視線をはずさない。再びドアベル。

ベン  
（叫ぶ）はいー！ 今行きますー！ ちょっと…

ドアに向かうが視線はキャンバスのまま。思いついたように引き返し絵を修正する。

違うな…。

再び描くことに熱中するベン。ドアベルがまた鳴るが、気付かない。少し間があり、ベンの携帯が鳴る。目はキャンバスのまま、電話を取るベン。

もしもし？ ああ、エイミー。今夜こっちに来るって言ってなかった？ あれ、雨？ かなり降ってそっだね。濡れてない？ えっ、濡れてる？ …（事態に気付いて）まずい！

慌てて部屋を出るベン。エイミーと一緒に戻ってくる。

本当にごめん。つい…

エイミー  
気にしないで。私、ウォータープルーフだから。

ベン  
びしょ濡れだ…タオルを取ってくるよ。

ベン退場。エイミーが部屋を見回して、ベンの絵に目を留める。

エイミー ずいぶんと忙しくしてたのね。

ベン (タオルを手に戻って) どう思う? 正直な意見を聞かせて。

エイミー いいと思う。すごくいい。丘と木の絵ばかりたくさんあるけど…これとか、素晴らしいわ。展示しましょうよ。私のギャラリーで。

ベン それはどうか。

エイミー すぐに買い手がつくわよ。このペースで描き続けたら個展ができるわね。

ベン 今は描くのが楽しいんだ。他のことはすべて忘れて、あの丘にいるような気になる。ありがとう。描くきっかけをくれて。

エイミー 「本気で夢中になれて、自分を満たしてくれるもの」でしょ。何かを思い出すヒントはあった?

ベン 不思議なんだ。描いてる時、ふと見えてくることがある。キャンバスに、こう…影が浮かぶような…でもそれだけ。そうだ、君に見せたいものがあるんだ。

ベンが一枚のキャンバスを持ち彼女に見せる。丘の上、木のふもとに座っている、BEFOREの頃のエイミーの姿が描かれている。

エイミー …そんな。

### M8 The Painting

ベン そんなに酷い?

エイミー いいえ、素敵よ。ただ…

ベン イメージが浮かんで描いてみたんだ。でもこうして比べて見ると、何か違うね。髪を上げてるからかな。なんだろう…

エイミー 光も 影も すべて  
まるで…

写真のように鮮明に  
あの日がよみがえるよう  
三年前…

丘で…

彼の心に  
刻まれている  
あの丘の  
二人へ  
還れるなら  
真実への  
扉開けよう 今

ベン？

何？

ベン

ずっと話そうと思っていたことがあって…

ベン

(頭痛音) いてっ…ごめん。

エイミー

どうしたの？

ベン

なんでもないよ。ただの…(頭痛音) くそっ。ここ数日、ちよつと頭痛が。

エイミー

事故の後みたいなの？

ベン

いや、そこまで酷くないんだけど。

エイミー

そうは見えないけど。大丈夫？

ベン

(頭痛音) いてっ…!!

エイミー

お医者様に連絡するわ。

ベン

大丈夫、自分でするから。

ベン退場。

エイミー

話せるわけない  
話せば痛みは  
広がるばかりで  
彼を苦しめる  
傷ついた心  
真実で救えるの  
焦らず、エイミー  
焦らず

でも この絵は  
あの日の午後  
沈む夕日に  
照らされていた  
あなたと  
二人…  
そう

M9 Transition 2

二人  
誰も来ない  
秘密の場所で  
愛に満ちて  
自由になれた

SCENE SIX - BEFORE (3)

丘の上。ベンがピクニック用の荷物を持って入ってくる。

ベン 早くー！

エイミーはまだAFTERに。記憶を辿りながら…

エイミー 待って

ベン おいでよー！

エイミー 待って

ベン もっすっせ

エイミー ちょっと、ベン！

ベン 見てっせ

エイミー こんなに歩かせて！

ベン ほら すっせ

ベンが荷物を置く。エイミーは上着を着て髪をアップにし、  
BEFOREの姿になっている。

エイミー それで、何を見ればいいの？

ベン 待った！（目隠しをする）

エイミー　ちよっと！　何するの？

目隠しをしたままエイミーの手を引っぱるベン。

ベン　ここが  
とっておきの場所  
僕らの目の前に

エイミー　わかったから。早く見せてちょうだい。

ベン　いいかい？

見てごらん  
手を伸ばしたら  
空にも届く　エイミー

エイミー　ベン…

ベン　歩いた甲斐があっただろ？

エイミー　すごい…

ベン　ここから見る夕日は最高なんだよ。

エイミー　どうして今まで来たことなかったのかしら。

ベン　誰も知らない場所だから。

エイミー　あなた以外。

ベン　（悪役の声色で）知られてしまったからには、帰すわけにはいかないな。  
（悪役の笑い声）

（キス）

エイミー。君にはもっと相応しい相手がいただろうに。

エイミー　そんなことないわ。私はあなたがいいの。それにしても、こんな場所を知らなかったなんて信じられないわ。ご両親に連れてきてもらったの？

ベン　両親には会ったことないんだ。僕は孤児でね。（冗談かと判断しかねているエイミーの表情を見て）本当なんだ。でも昔のことだから。もう気にしていない。（間）

ここで  
日常から 遠く離れて  
時は止まり  
すべて消えてゆく

この丘で  
星空を  
見上げ語ろう  
時を 忘れて

エイミー  
ここで？

ベン  
そう

ここで  
過去さえも  
追いつけない  
欲しいものすべて  
ここに 僕と  
二人きり

エイミー  
二人  
誰も来ない

二人  
秘密の場所で

キスしようとするど…着信音。

エイミー  
ごめんなぞう…

ベン  
「出なきゃ」でござ。

エイミー  
一秒で終わらせるから！… もしもし…  
携帯を持ってエイミーは退場。  
暇をもてあそぶべん。しびひ  
くってエイミーが戻ってくる。

ごめんね。

ベン  
で、名前は？

エイミー  
誰の？

ベン  
君の浮気相手。

エイミー 浮気なんてしてないわ！

ベン いつも慌てて電話を取って、こそこそと…

エイミー 父よ。

ベン わかってるよ。冗談。

エイミー いつもじゃないでしょ？

ベン まあ、電話が鳴るたびだけどね。

エイミー 父は私が心配なのよ。

ベン 28歳の女性が父親からの電話に毎回飛びつくなんて、心配なのはこっちだよ。

エイミー 子離れできていないのよ。母のことがあったから余計に…母は病気で亡くなったの。

ベン それは昔の話だろう？

エイミー でも父は母を救えなかったことを、今も悔やんでる。そういう人なのよ。それ以来、私だけが生き甲斐だから。私が大丈夫か心配なのよ。

ベン 君は大丈夫だよ。こうして僕といるんだから。

エイミー 古風な人なの。

ベン 僕のこととは知ってるんだろっ？

エイミー 折を見てちゃんと話すわ。

ベン 何？貧乏画家じゃ、お姫様の相手として認めてもらえないってこと？

エイミー 話すタイミングをしっかりと見極めるべきってことよ。例えばあなたが個展を開けば…

ベン その話はもうしただろ！

エイミー でもあなたには才能があるのよ。絶対に売れるのに…。

ベン 僕の芸術は売り物にはしない。絵を売らなくても十分稼いでるぞ。

エイミー そうでしょうとも。

ベン 君が思っている稼ぎと比べたら少ないかもしれないけどね。

エイミー お金のことはどうでもいいのよ。ただ、あなたの作品を人と共有して、価値を認めてもらうべきだと思って。

ベン 絵が売ればパパは僕を認めてくれる？

エイミー そうじゃないわよ！ 父が私を愛してくれているのはわかってる。でも時々、私を一生人形のように飾っておきたがってる気がするのよ。

ベン 君はどうしたいの？

エイミー 私はあなたとここにいたい。この丘のこの木陰で。自由気ままに、ふしだらに。

ベン ふしだら、ね。そんな言葉久しぶりに聞いたよ！

キス。彼女を見つめて…

駄目だ。もう我慢できない。(今そのままの君が欲しい。)

エイミー えっ?!

ベン この陽射しの中、この木の下で。ボタンはずして。

エイミー 誰か来るかもしれないじゃない！

ベン こないよ。ここは誰も知らないって言ったろ。ほら、もうひとつはずつで。

エイミー ベン！

(キス)

ベン 木にもたれて。足はそのまま。よし、それでいい(綺麗だ)。動かないで。

ベンがスケッチブックと鉛筆を取り出す。

エイミー …絵を描くのね。

ベン なんだと思ったの？

エイミー …別に。

ベン まったく…ふしだらな女だな！ …あとでね。

エイミー よかった。

ベン じつとしてたらね！

ベン、描き始める。

エイミー へえ、絵を描く方がいいんだ。

ベン どちらか選ばなきゃだめ(なの)？

エイミー 描くのにかかる時間次第ね。

鉛筆を走らせるペンをしばらく見つめる。

---

### M11 No More Forgetting

(私ね、) 絵を見るのは好きなの(よ)。描く才能はまったくないんだけどね。

ベン 真新しい紙の上に

自由に 描(えが) ください

エイミー 「自由」って。じゃああなたはどんな時に描(か)きたくなるの？

ベン 僕にとって大切な時間を過ごしてる時。でもその一瞬は…

星の ように  
瞬いて消えゆく

だからその瞬間を描(えが)いて、永遠に残しておきたいんだ。

忘れない この一瞬(とき)

溶け合う 光と影を

微笑む 君を

夕日に照らされ 静かな

時間が

忘れない この一瞬(とき)

となりに

かけがえのない

彼女がいれば

世界は 穏やかな

光に 包まれる

探してた 居場所みつけた  
欲しいものすべて  
ここに あった エイミー

M12 Drawing Ami

エイミーの携帯が鳴る。スケッチを続けるベン。

エイミー ちよつと…

ベン しゃべらないで！ 今、口元を描いてるんだ。

エイミー でも…

ベン 動かないでっつて。

じぼりく我慢するが、鳴り続ける着信に耐えられず…

エイミー ごめんなさい！ 出なきゃ！

ベン クソッ！（畜生！）

エイミー （電話に）もしもし、パパ！ …ええ、元気よ。大丈夫。まだピクニ  
ックよ…誰と？ えっと…（退場）

ベン 一瞬で

また彼女を奪われる  
保護者が目を光らす  
巢立つことを許さず  
いつまでこんなことが続く？

でも 望むならば  
この手で  
僕が 鎖を解こう  
もう迷わない  
今彼女に  
今こそ 言おう

エイミーが戻ってくる。

エイミー ごめんなさい。

ベン 会わせて欲しい。

エイミー だからタイミングを見てっつて…

ベン　でも君のお父さんだって、娘と一緒に暮らす相手には会っておきたいはずだ。

エイミー　えっ？　一緒に住もつてこと？

ベン　僕んちに越して来たらしい。

エイミー　…あそこは無理。

ベン　じゃあ一緒に部屋を探そう。

---

M13 As Long As You're There

エイミー　本気？

ベン　僕はいつも本気だよ。

エイミー　よく言っわ。

ベン　いいから、考えてみてよ。

もし 二人部屋を借りて  
どこか都会に  
それが田舎に  
もし 今一歩  
踏み出したら？  
もしも…

エイミー　そんなお金どこにあるのよ！

ベン　エイミー！

もし たまには決めつけずに  
ガードをもしゆるめたら？  
そう もし 今よりも  
幸せなら

想像してみてよ  
海辺の家  
砂浜を  
走る子供たちを  
すべて 君となら

次の一歩だよ！

エイミー 大きすぎる一歩よ！ お互いのことまだよく知らないし。

ベン よく知るには一緒に暮らしてみるしかないよ。

新しい 仕事 増やそう

エイミー 絵を売れば…

ベン 夜には 君の腕の中で  
なんとかなる  
君さえ…

キスしようとするが、エイミーが避ける。

エイミー 待って！

もし あなたが想像するような  
私じゃなくて

ベン じゃあどんな？

エイミー さあ？

ベン エイミー！

エイミー もし 理想とは違ったら？

ベン 保証はないけれど  
でも信じてみて  
この丘で見つけた絆  
大丈夫さ  
二人なら

エイミー 待って ベン  
急ぐのは危険よベン  
やめよう ベン  
時間かけるべきよ  
もし焦って  
流されるのが怖い  
自分つい見失うから  
ここでは

ベン  
ここで  
はじめよう  
君と二人で  
心 ひとつに

信じて

どんな最悪なことが起こるっていうの？

エイミー 修羅場に次ぐ修羅場の末の大失恋…

ベン そんなことが起こると本気で思ってるの？

エイミー わからないじゃない。それにパパは？ パパには私が必要なのよ。

ベン 君には？ 君には何が必要なの？ そろそろ自分のこと、僕らのことを考えるべきだよ。ね？

エイミー …わかった。

ベン それだけ？ 僕らにとっていいチャンスじゃないか。試してみようよ！

エイミー 離さないで

ベン 信じて ずっといる

エイミー いつも？

ベン いつも

二人 今こそ旅の始まり

魂 惹き合い 結ばれた

二人だけの景色描いて 今

エイミー 今こそ 決断しよう

明日を信じて飛び込もう

ベン 同じ時の中 今

二人 愛は深く根を張る

二人ならば ずっと

抱き合う二人。暗転。

【一幕終わり】

ACT II

SCENE SEVEN - BEFORE (4)

M14 Daddy, I Met This Boy

エイミーが一人、電話を片手に独り言。

エイミー

よし、これは一大事よ。人生で一番大事な電話になるかもしれない。落ち着いてエイミー。自分の父親に電話をかけるぐらい、たいしたことないでしょ。いつものことじゃない。…ただ今回は心臓発作を起こしちゃうかもしれないけど…って、そんなのわからないじゃない。とりあえず話してみよう。どんな最悪なことが起こるっていうのよ。…修羅場に次ぐ修羅場…

パパ、紹介したい人が  
きつと気に入ると思う  
パパ、急で驚いたでしょ  
いえ結婚の話はまだよ  
これまでと違うの  
初めてだわ こんな気持ちは  
彼のおかげなの  
落ちついて エイミー  
なんとかなるわ エイミー  
電話くらい

ちゃんと話を聞いてくれるかしら、パパ。なんでこんなに難しいんだろう。自分の気持ちを伝えればいいだけなのに。

パパ、逢わせたい人がいるの  
土曜日時間があれば  
一緒に行きましょうよ ピクニック  
最高の場所があるの  
上手く言えないけれど  
彼といるだけで幸せなの  
とても大事な人

私の幸せ 喜ぶはずよ 勇気だそう

かけようとするもののまた躊躇。

何が怖いのか、エイミー？ 大丈夫  
きつとわかってくれる  
パパとママは駆け落ちだった  
直感を信じたでしょう

わかってよ、パパ  
彼はアーティストなの

パパ好みの相手とは  
結局うまくいかなかった  
今の彼は絵具まみれ 定職にもつかないけど  
私のことだけ愛してくれる人

照らされている あなたと 二人

パパ、出逢ったの あの人の  
もう誰にも止められない  
鳥かごの鍵あけて  
自由な空を目指して  
愛してるの

ただそれだけ

大きく深呼吸をして電話を掛ける

パパ？ 私よ。

#### SCENE EIGHT - AFTER (4)

ベンの部屋。そこに並べたキャンバスを見つめて、ベンは  
苦悩に満ちた顔。

ベン 大惨事になるよ。

エイミー ならないわよ。

ベン 彼らは僕の絵を観に来るんじゃない。批判するために来るんだ。恐ろしい。きつと腐ったフルーツを投げつけられる。

エイミー ギャラリーに腐ったフルーツを持参する人がどこにいるのよ。

ベン さあね！ 超過激なベジタリアンとか？

エイミー ベン、落ち着いて。誰でも初めての個展は不安になるものよ。

ベン 本当に誰でも？

エイミー ある彫刻家がいるね。初めての個展なのに自信满满で、一晩中ご機嫌でジョークを飛ばしてた。

ベン ほら。

エイミー　でも評論家たちの評価は最低だったのよ。

ベン　吐き気がする…

エイミー　たしかそんな批評も…

ベン　中止だ。中止にしましょう。

エイミー　中止になんてしません。

ベン　頼むよ。なんでもするから。君が喜ぶあんなことやこんなことも…

エイミー　お得意のツナパスタとか？

ベン　笑えない。まったく笑えない。そもそも評価を気にするべきなのは君だろ。僕のことなんてもともと誰も知らない。でも君のギャラリイはようやく評判を得てきたところなのに…もうおしまいだよ。

エイミー　ベン。あなたのこと大好きだけど、いい加減疲れてきたわ。

ベン　ごめん。

エイミー　いいニュースだったじゃない。

ベン　どんな？

エイミー　CTスキャンの結果よ。何も見つからなかったんでしょ。

ベン　脳みそすらね。頭痛はまだ続いているし。

エイミー　精神的なものだってお医者様も言ってたじゃない。あなた自身が思い出すことを拒んでる何かがあるのかもしれないって。絵を描いている時に痛くなるんでしょう？

ベン　だいたいね。

エイミー　じゃあ、作品の評価が不安なだけよ。個展が成功すればなくなるかも。

ベン　かもしれないけど、なくならないかもしれない。

エイミー　ベン！

ベン　ごめん。でも…違うんだ。個展じゃないんだ。実は最近考えてるものがあつて。

エイミー いい話じゃなさそうね。

ベン 僕の記憶が、いつか洪水のように戻ってくるかもしれないって話、覚えてる？

エイミー ええ。

ベン ってことはだ。もしある日突然、僕が過去の僕に戻ったら？

エイミー 過去のあなた？

ベン 事故の前の僕だよ。もし記憶が戻って、今の僕が変わってしまったら？

エイミー どう変わるっっていうの？

ベン わからない。でもそれで、僕らがうまくいかなかったら？

エイミー そんなことあるわけないわ。

ベン なんでそう言い切れるんだよ？

エイミー なんでって…

ベン 今の僕とはまったく別人だったかもしれないじゃないか！

エイミー そんなことない！

ベン 君にはわからないだろ！

エイミー …飲み物を取ってくるわ。

エイミーはキッチンへ。

### M15 The Close We Get

エイミー 近づくほど 言えなくなる

隠し続けることはできない

あなたを日々近く感じる

あの日のように

でも 過去の真実は

今を傷つける

だから今日も

言えないまま 過ぎてく

ベン 近づくほど 堕ちて行く

信じるものが はかなく消えて  
今を裏切るとするなら  
怖くなる

もし 君が見つけた  
僕が消えたら  
だから今日も  
過去に背を向けてる

エイミー

一日

ベン

また

エイミー

過ぎ

ベン

時だけが

二人

過ぎ行く

エイミーがファイルを持ってくる。

エイミー

これ何？

ベン

なんでもないよ。返して。

エイミー

あなたの名前が書いてある…

ベン

いいから返して！…セラピストが僕についての情報を調べてこのファイルに入れてくれたんだ。記憶を取り戻す助けになるかもって。

エイミー

じゃあ…

ベン

見るかどうかは僕次第だって。

エイミー

見なかったの？

ベン

ずっと怖くて見れなかった。でも君が、過去のことは関係ないって言うてくれたから、ようやく勇気が出て。

エイミー

…それで？

ベン

出生証明書が入ってた。これまでの勤務先とか、住んでいた場所とか。でも結局、ただの紙切れでしかなかった。僕じゃない他の誰かのもの。だとしても大差ないような。何のヒントにもならなかった。

愛とは人の心に居場所をみつけることだと

エイミー　すべて話して　向き合つこと

二人　近づくほど　離れてく

惹き合う心  
変わらなくても

扉を開けるのが怖い  
踏み出せず　まだ

過去に捕らわれ  
明日を犠牲に  
どうすればいい

ベン　照らしてくれ　過去を

エイミー　過去の影

照明OUT。ベン退場。エイミー上着着て髪アップに。

### SCENE NINE - BEFORE (5)

丘の上でエイミーが一人。ベンがやってくる。

ベン　はあー！　この丘、登るたびに斜面が急になってる気がする。それでもこの景色のためなら何度だって来るけどね。今日の夕日も最高だ！  
そして君も…美しい！　遅れて悪かったね。ちよつと急用ができちゃって。さつさと済ませようと努力したんだけど、なかなか抜けられなくて…あーもー！　って。でも僕抜きで始めてみたいだね。うん、そうしてくれてよかった。電話しようと思っただけど、何故かずっと圏外でさ。サンドウィッチ残ってる？

エイミー　(間)…どこにいたの？

ベン　だから急用が…

エイミー　どんな？　バーテンダーの急用って、何？　ピーナッツに塩が足りなくてひと粒ずつ味付けしなきゃいけなかったとか？

ベン　違うよ。友達が…前にも話したことがあると思うけど、そいつから連絡があつて…

エイミー　帰ったわ。

ベン　帰った？

エイミー　父よ。私がつつと説得してきて、ようやくあなたに会ってもらつ約束を取り付けた父。自分を認めてくれないってあなたがいつも気にして

た父。あなたがその、自由気ままな少年のような魅力で心をつかもうとしていた、私の父よ！

ベン 悪かったよ。

エイミー どうして来てくれなかったの？

ベン こんなことを言うべきタイミングじゃないんだろうけど…怒ってる時の君ってすごくセクシー…

エイミー ベン！

ベン ごめん。

エイミー 彼が忙しい人だって、知ってるじゃない。せつかく時間を作ってくれたのに。あなたに会うために来るのわかってたでしょ。

ベン 大丈夫だよ、お父さんだって大人なんだから！

エイミー 私は父を尊敬しているの。あなたも少しは敬意を払うべきだって言ってるのよ。

ベン わかってるよ。

エイミー 私、馬鹿みたいじゃない。パパにあなたのことをあんなに説明してきたのに！

ベン へえ、そんなに説明しないと安心してもらえないんだ、僕は。まあ負け組の貧乏画家じゃ仕方ないか！

エイミー そんなこと…

ベン スーツを着て仕事に行かないから？ デスクでくだらない…ごめんごめん、「ワークステーション」でくだらないパソコン画面を一日中眺めて過ごさないから？

エイミー あなたが信頼できない人だからよ！あなたはいつも口ばかり。愛してるわ、ベン。だけど、実現しそらにもない未来をいつまでも待ち続けるなんて嫌。一緒に部屋を借りるんじゃないの？

ベン 借りるよ！

エイミー いつよ？ 物価の高い街なのよ？ それこそ父に援助してもらえたかもしれないのに…

ベン そういうことか！ 僕が飼いならされた彼氏を演じればパパがお小

遣いをくれて、ヤングセレブ向けのマンションが借りられたってわけか！ 悪いけどそんなことのために、僕を見下してる奴にしおらしい態度で取り入るなんてごめんだね！

エイミー それですっぽかしたの？ 急用なんて嘘。自分は私や父にはもったいないと思っただんだ。

ベン 違うよ！

エイミー どうせ私は、都合よく扱われてポイ捨てされる馬鹿な女よ！

ベンがポケットから不動産の資料を取り出しエイミーに渡す。

ベン 「スタジオ・フラット」。つまり、「ワンルーム」ってこと。「振興地域」、つまり戦場みたいに荒れ果てた地域。「Fixer-upper」、つまり、「ボロ家」。それでも他に十二組も興味を持ってた人がいたんだよ。だから、すぐに行って敷金を払ってこなきゃならなかったんだ。全財産を渡してきた。

エイミー ベン！

ベン わかってる、君は正しいよ。確かに僕はいつも口先ばかりだし、今日も約束を守るべきだった。お父さんに気に入ってもらえないのが怖かったのも事実だし、せめて電話一本入れるべきだった。心から反省してる。だから仲直りのエッチしよう？

エイミー 時々本気で殺したくなるわ…。(いっぺん死ね！)

ベン 部屋を見せるのが怖いな。

エイミー 家賃は大丈夫なの？ 本当に私たちに払える？

ベン 仕事を増やすよ。

エイミー もう増やしたじゃない。

ベン もうひとつ増やすよ。なんとかするから。

エイミー 絵を売れば…

ベン エイミー、その話はやめよう。

エイミー 稼げるつえに名前も売れるのに？

ベン すでにこんなにイケメンでセクシーなのに金と名誉まで手に入れたら大変だよ。危険だ。

エイミー わかったわ。絵のことはもう言わない。

ベン 部屋、見に行くだろ？

エイミー まあ…

ベン なにそれ。もうちょっとテンション上げてよ！

エイミー 家賃も払えそうにないそのボロ物件にさっさと連れて行かないとぶつ殺すわよ！

ベン その調子だ！

### MI6 The Next Step

過去はもう 振り返らず  
前だけ見てゆこう  
うまくいくぞ

道のりは長いけど  
辿り着ける  
時間かければいい  
信じていて

僕らの JOURNEY  
楽しもう  
景色を眺めながら  
さあ 始めよう  
一緒に見よう  
どんな明日も  
飛ぶこと恐れないで  
そう ここから始めればいい

大丈夫だって。僕が保証する。二人でいればうまくいく。

ひとつだけ約束をしよう  
足並みを揃えて 歩こう  
でこぼこ道でも 手を繋ぎ  
進めるはずさ  
一人じゃできない  
隣にいと誓って  
君となら もつ何も怖くない

エイミー あまり鬱囲気のいいエリアじゃないわね

ベン 開発中なんだよ。大丈夫、アパートはきつと気に入るから。

漂うだけの人生  
面倒なことは避けてきた  
自由に 一人  
過保護な親はいなかったし  
施設から施設へ  
それでも  
辿り着けた

SCENE TEN - BEFORE (5A)

アパートに到着。

ベン 君と HJJD

どう？ ほら、正直に言ってみて。

エイミー えっと…

ベン うそ。あんまり正直じゃなくてもいいよ。

エイミー あそこのシミ、嫌いじゃないわ。シャガールっぽくて。

ベン シャガール？ いやいや、彼の筆遣いはもっと…ごめん、君が言いたかったのは、シミがあるってことの方だね。まあ完璧とは言えないけど、ほら見て。ちゃんと四方向に壁があるじゃないか！

エイミー そこには寄り掛からない方がいいわよ。さっき体重をかけたら抜けそうになったから。

ベン じゃあ35 っつこと。立派な天井だってあるし。

エイミー ねえ、雨漏りしてない？

ベン 雨が降った時だけさ！

小さなこと いくつかある  
でもそれより魅力を  
感じてみて

エイミー なんか臭わない？

ベン これは…ネズミのおしっこ。

完璧じゃないけど その方がいい

この手で作れるんだ  
僕らの家

エイミー

ベン、この絨毯、誰かが吐いたような色…

ベン

取り替えればいいさ。

エイミー

ひどいボロ家じゃない。

ベン

まあね。でも「僕らの」ボロ家だ！

君となら 叶うはず  
家族になろう ここで  
誰も邪魔は できないさ

床板は結構いいものだと思うんだ。家具は近所のごみ捨て場からもら  
つてくれれば…

エイミー

なんですって?!

ベン

作り上げるんだ  
理想の部屋と  
笑顔溢れる家庭を

君がすべてさ  
君がいなきや意味がない  
ただひとつ 守ると決めたもの

エイミーにキス。

エイミー

どうして毎回この手に引っ掛かっちゃうんだろう。

ベン

まあね。じゃあ僕は早速ペンキを買ってくるよ。

ベン退場。

エイミー

そう じつから始めればいい

エイミーを舞台上に残したまま転換。

#### SCENE ELEVEN -AFTER (5A)

ギャラリィ。ベンが絵を抱えて入ってくる。壁に並べる。

ベン

違うな。これも違う。最後に見る絵はすべてを繋ぐ一枚じゃないと。

M17 All These Pictures

エイミー 記憶の 欠片たちが (上着を脱いで髪を下ろしながら)

ベン ちよつどいいのがあるはずだ… (探しに退場)

エイミー 過去への 扉を叩く

ベン (別の絵を持って戻ってきて) 赤ワインのシミがついたエプロン…

エイミー 失くしたはずで 忘れられない 思い出が

ベン これも違う。丘か？

エイミー 心の奥で めむめく

ベン 夕日？ 木？

エイミー 近づくと 落ちて行く

ベン どこかにあるはずなんだ。(ベン再び退場)

エイミー どん入も 行けずに

過去の影に怯えるだけ

言わなきや  
言いつのち  
今夜 TONIGHT

個展の初日 終わったら

AFTER TONIGHT  
AFTER

フジかな…

SCENE TWELVE -BEFORE (5B)

アパートの部屋にベンが一人。

M18 Three Long Months

ベン BEFORE 今朝出掛ける前に

ちよつどいいの 僕の部屋

出勤準備中のエイミーが入場。

エイミー そんな時間ないわよ！（走って退場）

ベン 三ヶ月 磨き続け

三ヶ月 壁を塗り

三ヶ月 ホコリにまみれて

やっと完成

理想よりパーフェクト

まるで 夢に見た暮らし

エイミーが髪を上げ、上着のボタンを掛けながら入場。

新しい部屋に君と

そう ここから始めればいい

まあ、水が止まらない蛇口と、音楽の趣味の最悪な上の階の奴らと、僕の自転車を盗んだくそ野郎以外は。

エイミー やばい！ 遅刻！

ベン 携帯とノートパソコンは持った？

エイミー もちろん！ …ない！

ベン ほらね。

エイミー あなたまるでパパみた…ごめんなさい。父の話をするつもりじゃ…

ベン いいよ。お父さんが僕に会いたくないなら、それは向こうの問題だ。

エイミー いずれわかってくれるわ。ちよつと時間が必要なのよ。

ベン 君を見捨てたんだぞ。僕と住み始めたからって…ひどい父親だ。

エイミー もうその話はやめましょう。

ベン 君にはもつと相応しい…

エイミー いいえ。私はあなたがいいの。（キス）

ベン ミント味だ。

エイミー あっ、携帯！

ベン 洗面所だ。

エイミー退場。

エイミー (袖中で) あった!

ベン 今夜はシーフードリングイネだから。

エイミーが携帯を持って戻ってくる。

エイミー つまり、ツナ缶パスタでしょ。

ベン まあね。よい一日を。いってらっしゃい。

エイミー いってきます。

キス。エイミーがアパートを出る。ベン退場。

三ヶ月 疲れ果てた

三ヶ月 寝不足だわ

三ヶ月 安らぐことなく

何かが…

部屋はいいけど

何かが

違う…

エイミーの携帯が鳴る。

「ジョナサン」。ああ、まただ。出ちゃだめよ、エイミー。でも出な  
きゃきつと後悔する。出なきゃ! 彼の話が忘れられない。

すべて忘れて

ベンだけ見つめられたら

いいのに…

無視するなんてできない。もしかしたらもう二度と会えないかもしれ  
ないんだもの。二度と抱き締められないかもしれない…(電話を取る)  
もしもし、ジョナサン。ええ、ごめんなさい…いえ、大丈夫よ。本当  
なのね…。

### SCENE THIRTEEN -AFTER (5B)

ギャラリーにベンが一人。絵を壁に掛けては離れて確認し、  
個展の準備をしている。

ベン だめだ。うまくいかない。順番が何か違う…個展はもう明日なのに!

### MI19 Before After

感覚を 研ぎ澄ませ  
さあ 答え見つけよう 今

木の絵を拾い上げる。

まずは木だ 間違いない  
凜と力強く  
次は夕日だ 光放ち…  
違う！ 違う！ 違う！  
考えろ 冷静に 並べよう  
それは後に これを前に…後に

どこだエイミー？

導いてくれ

「絵は音楽と同じ」

彼女は言った

「答えは音符の中にある」  
エイミー

彼女が答えか？（丘の絵を拾い上げる）

それなら 丘から始めよう

ここで出会った

二人の丘だ

そして次は夕日

彼女が走らせた…

違う！ 違う！ 違う！

何か違う まだ違う 考えろ

これは後に それを前に…後に

聞こう エイミー

答え教えて

「絵はパズルと同じ

コツがあるのよ

見方がわかれば 浮かび上がる」

エイミー

でもこの、シミがついたエプロンは？ 他の絵とはまったく関連性が  
ないのに、どうしても必要に思える…待てよ、そうだ！

これが最初

でも何か違う

丘と夕日と景色

二人で走った…

いや、「僕が」走らせた！

次は…

木か！

それからエイミー

それだ！

これでいい  
エイミーで完成する

壁に掛ければ  
ストーリーになるはずだ  
順番通りにかけてみよう…

シーン3で見たエイミーの絵を持つ。

できた！ これだ！ 木陰でボタンを外し、微笑んでいる彼女。

エイミー 君が答え

西日に照らされた彼女の顔。記憶みたいに鮮明だ！ でも彼女は髪を上げていて、若く見える…どうしてこんなに具体的なイメージが？

あの日  
とっておきの場所  
僕らの目の前に  
見てごらん 見てごらん

待て！

もう一度 描いてみて  
なんだ？ 違う！ どうして？

初めて丘へ行った  
一緒に走った でも  
前にも二人で見たような…

夕日と景色と  
ピクニックと「ふしだら」  
ボタンにキス…  
思い出した

同じ時の中  
愛は深く根を張り

彼女だった  
ずっと

エイミー！ エイミー…

どうして

何も言わなかった…

一言さえ…

エイミーが入ってくる。

エイミー 調子はどう？ あっ、完成したのね！ 答えはなんだったの？（彼の表情を見て息をのむ）

ベン どうして話してくれなかったんだ？

### M20 Sketches (Part 2)

エイミー 話すつもりだった。

ベン でもずっと黙ってた！

エイミー ベン、落ち着いて。何度も話そうとしたけど、タイミングが…

ベン タイミング？ 出会った時は？ いや、あれは初めてじゃなかったのか。再会？ もう何がなんだか…

エイミー あなたを混乱させたくなかったのよ。頭痛のこともあったし…

ベン 一人にしてくれ。

エイミー ちゃんと話し合いましょー！

ベン ほっといてくれ！ ちょっと…とにかく一人にしてくれ！

エイミー ベン！

ベン （叫ぶ）出て行け！

ベン ベンはエイミーを部屋から押し出し、ドアを閉める。

ベン エプロンのシミ。そうだ、レストランで…そこで僕らは出会ったんだ。初めて。彼女が赤ワインをおかわりして…泣いてた。彼女があまりに素敵で。仕事を放りだしたんだ。彼女の手を取って店を出た。

（ベンの記憶の中の）エイミーに照明IN。

エイミー

この絵は  
あの日の午後  
沈む夕日に  
照らされていた  
あなたと  
二人…

ベン

初めてキスをした時のワインの香り。まるで揺れ動く世界に僕らだけが止まっているみたいだった。思い出した…全部覚えてる！

エイミー

二人  
誰も来ない  
秘密の場所で

ベン

パソコンでダウンロードするみたいにな！

エイミー

過去さえも

ベン

あの丘に彼女を初めて連れて行った。

エイミー

追いつけない

ベン

永遠に残しておきたいと思った。

二人

欲しいものすべて  
ここに あるの (あった)

見てごらん  
手を伸ばしたら  
見てごらん

ベン

でも彼女がじっとしていなくて…口元を描いてるからって言ったのに…

エイミーの携帯が鳴る。ベンが頭を抱える。

ああっ！

エイミー

ごめんなさい、出なきゃ！

ベン

何故彼女は黙ってた？

二人

過ちなら

ベン

チャンスはいくらだってあったのに！

やり直す

エイミー やり直せばいい

ベン 何度でも

何故僕を探しにこなかった？

エイミー もしもし、ジヨナサン？

ベン 二人が幸せだったなら…

二人 離さないで

エイミー 信じて *trust me*

ベン 愛し合っていたなら、どうして…

二人 愛は深く根を張る

エイミー 二人…

ベン (頭痛) 頭が…

エイミーの携帯がまた鳴る。

エイミー ごめんなさい、出なきゃ！

ベン エイミー？

エイミー (電話を取って) ジヨナサン？ 今彼がいるから。

ベン 誰だ？

エイミー 彼に気付かれるから。…いいえ、まだ言えない。…もちろん行くわ。行かないと。ごめんなさい、あとでかけ直すわ。

ベン エイミー?!

#### SCENE FORTTEEN - BEFORE (6)

アパートの部屋にベン。エイミーが入ってくる。

エイミー

ただいま。(あくび)ごめんなさい。また残業が長引いちゃって。ト  
ラブルがあってね。くだらないことで延々と。あー、お腹すいた！何  
か食べるものある？…わけないわよね。どうしたの？ なんか疲れて

る？ 起きてなくてもよかったのに。先に寝ててって言ったじゃない。  
(間)

ベン  
いつ？

エイミー  
メールしたでしょ？

ベン  
きてないよ。

エイミー  
ほんとに？ 送ったつもりだったのに。バタバタしてたから。ごめんね。

ベン  
どんなトラブル？

エイミー  
よくあるようなことよ。ただ思ったより長引いただけ。どうしたの、急に。

ベン  
君の職場に電話したんだ。夕飯の時間になっても帰ってこなかったから。そしたら、君は定時の6時にあがったって。

エイミー  
…そう。

ベン  
今週は毎日定時に帰ってるそっじゃないか。ただ君が帰ってくるのは早くて10時だ。

エイミー  
ちゃんと説明するから。

ベン  
ジヨナサンって誰？

エイミー  
…。

ベン  
知ってるだろう。ドクター・ジヨナサン・テート。今朝君が出掛ける前、携帯を見たんだ。

エイミー  
携帯を見た？ どういうこと？

ベン  
洗面所に置いておくの、やめた方がいいよ。このひと月ぐらい彼からずいぶん頻繁に掛かってきてるね。君からもしょっちゅう掛けてるから、ストーカーってわけじゃなさそうだ。

エイミー  
勝手に人の携帯を見るなんて…信頼し合ってると思ってたのに。

ベン  
浮気してるのか。

エイミー  
よくもそんなことが言えるわね。ずいぶん飲んでるでしょ。

ベン 否定しないんだな。

エイミー あなたと一緒にいるために、すべてを犠牲にしてきたのに！

ベン すべて、ね。

エイミー 朝から晩までつまらない、どうでもいい、大嫌いな仕事を、お金のためだけにしてるのよ！

ベン ジョナサンと会う時間はあったみたいじゃないか。

エイミー 誰かが生活費を稼がなきゃいけないでしょ。あなたの稼ぎだけじゃ生活していけないんだから。

ベン 僕じゃなくてドクター・ジョナサン・テートと暮らせば問題解決だ。パパが望んでいたとおりの相手じゃないか。さぞかし喜んでるだろう。

エイミー いいえ。

ベン それは残念。どうして？

エイミー 死んじゃうからよ。ドクター・ジョナサン・テートは父の主治医。がんの専門医なの。毎晩行つてたのは病院。父のそばに居るため。もうすぐ亡くなる父のそばにね。

ベン 死にかけてもまだ邪魔するんだな。

エイミー なんですって？

ベン …。

エイミー 父のことをよくもそんな…

ベン 君に惨めな思いをさせた奴じゃないか！

エイミー あなたは違うの？

ベン 僕は違ったさ！ 君を自由にした。

エイミー ずいぶんな自由よね。こんな靴箱みたいなところに…

ベン ここは僕らの家だぞ！

エイミー

違うわ、ベン。ここはボ口家。あなたの、芸術を売り物にしないっていうちっぽけなプライドを守るために仕方なく耐えてきただけのボ口家！

ベン またその話か。

エイミー 大体あなた、金曜の夜に家で何してるの？ バーテンダーにとっては一番忙しい時間じゃないの。

ベン クビになったんだよ。

エイミー へえ、今度は何？ またシフトをすっぽかしたの？ 浮気してるのはそっちだったりしてね。

ベン 絵のアイディアが浮かんだんだよ！ アイディアが浮かんだら、すぐにキャンバスに向かわないと。僕は芸術家なんだ！

エイミー そう。じゃあその芸術はどこにあるの？ どうして誰にも見せようとしないの？ 気に入ってくれる人がいるかもしれないのに！ でも誇り高いあなたはそんなのは嫌なのよね。悪いけどね、ベン。才能を持つている人は、働くのよ。自分を哀れんで家でテレビなんか見えないで、働くの。あなたが絵を人に見せないのは、本当は自信がないからなんじゃないの？

ベン まるで君の父親みたいな口ぶりだな。

エイミー じゃあパパは正しかったのかもしれないわね。あなたは勝負に出ようともしない、ただの負け犬よ！

ベン いい加減にしてくれ！

ベン出て行くじつとすね。

エイミー 全部捨てて逃げればいいわ。今までもそうしてきたんでしょ？ 面倒になったら去る。それがあなたのやり方よね。

ベン 別にいいだろ。

エイミー 残らなきゃいけない理由なんてないものね。

ベン そうだな。

エイミー 絆も、家族も、責任もない。都合が悪くなったら、向き合おうともしない。解決するために努力するなんてとんでもない。ただ逃げるの。夕日でも見にね。あなたは怖いよ。

ベン 怖い？

エイミー そう。口先だけの、からっぽな自分と向き合うのが怖い。果たせも

しない約束ばかり…。もううんざり！ これ以上私の時間を無駄にしないで。出て行ってよ！

ケン エイミー…

エイミー 何よ。(または無言)

ケン もういい。

照明フェードアウト。エイミー上着脱ぎ、髪下ろす。

#### SCENE FIFTEEN – AFTER (6B)

照明フェードイン。

ケン …で、僕は車に。酒を煽って、自己嫌悪にまみれて、夜明けまで車を走らせた。気づいた時には強い光が目の前に。とっさにハンドルを切ったら、木に突っ込んだ。(間) その瞬間、思ったんだよ。自業自得だって。(間) どうりで君は僕を探しに来なかったわけだ。当然だよ。

エイミー 電話したのよ。次の日に。留守電を残したけど…

—(ケン) 事故の時、携帯をなくしたんだ—

エイミー それから何週間たってもかかってこなかったから、諦めるしかないんだって思ったの。父のこともあったし…生活を立て直すのに必死で、あなたを追いかける余裕はなかった。

ケン すべて僕のせいだ。

エイミー 私も悪かったのよ。あなたに酷いことをたくさん言ったわ。

ケン お父さんがあんな状態だったんだ。そばにいてやるべきだったのに。

エイミー 父のこと、隠さずあなたに話すべきだった。

ケン 言えなくさせたのは僕だ。もう償うこともできない。

エイミー あなたにとっても大変な時期だったのよ。でも、あなたは私に絵や芸術について教えてくれた。それが生き甲斐になった。父が遺してくれたお金でこのギャラリーを買ったのよ。だからあなたはたしかに、私を自由にしてくれたの。

ケン 僕は身勝手に弱い人間だった。君に素晴らしい未来を約束したのに、叶わなかった時、君を責めた。



君の笑顔を どんなに  
愛しているか 伝えてない

そばにいれなくて ごめん  
今さらだけど 言わせて  
愛を忘れかけこと  
諦めかけたことも

たがいに過ちは いくつもあるし  
不安は今も 消えないけれど  
やっと気づけたんだ  
過去は置いてゆこう

エイミー  
あなたにはもっと相応しい人がいるかも。

ベン  
いや、僕は君がいいんだ。

離れないで

エイミー  
信じて ここにいる

ベン  
今こそ旅の始まり

エイミー  
魂

ベン  
惹き合い

二人  
結ばれた  
二人だけの景色描いて 今

ベン  
今 同じ時の中  
エイミー  
今こそ旅の始まり  
魂惹き合い 結ばれた

二人  
愛は深く根を張る  
二人ならば ずっと

終